

## 神奈川県観光振興計画の見直し（案）の概要について

## 1 計画見直しの趣旨

現行の「神奈川県観光振興計画」（以下「計画」という。）は、平成 28 年度から平成 30 年度までを計画期間として、平成 28 年 3 月に策定した。

今回、計画期間の約半分が経過する時期を迎えるに当たって、計画策定後の観光施策を取り巻く状況の変化に対応していくため、計画の目標値の一部修正や、新たな取組の計画への位置付けなど、計画の一部見直しを行う。

## 2 計画見直しの内容

## (1) 外国人旅行者の訪問者数に係る目標値の上方修正

政府は、平成 28 年 3 月に「明日の日本を支える観光ビジョン」を策定し、訪日外国人旅行者数の 2020 年の目標値を、2,000 万人から 4,000 万人に上方修正している。

また、本県の外国人旅行者訪問者数は、平成 28 年に 231 万人にまで増加し、現行計画において平成 30 年の目標としていた 201 万人を上回るに至った。

その一方、近年では地方空港への LCC 便の就航増加や、外国人観光客のリピーター化等により、外国人旅行者の訪問地が日本各地に分散し、本県への訪問率が低下している。

そこで、今後の施策展開により、訪日外国人旅行者の本県へのさらなる誘客を図るとともに、本県への訪問率の低下に歯止めをかけ、それを段階的に高めていくこととし、外国人旅行者訪問者数の目標値を次のとおり上方修正する。

## 【目標値】

2017 年（平成 29 年）目標値	192 万人	251 万人
2018 年（平成 30 年）目標値	201 万人	298 万人

< 参考：各年における目標値の推移 >

年	日本全体の外国人旅行者数（予測）	神奈川県への訪問率（目標値）	神奈川県への訪問者数（目標値）
2016 年	( ) 2,404 万人	( ) 9.6%	( ) 231 万人
2017 年	2,728 万人	9.2%	251 万人
2018 年	3,100 万人	9.6%	298 万人
2019 年	3,523 万人	10.2%	359 万人
2020 年	4,000 万人	11.0%	440 万人

( ) 2016 年の数値は実績値

## (2) 新たに計画に位置付ける取組

## ア 神奈川県観光魅力創造協議会

ラグビーワールドカップ 2019™及び東京 2020 オリンピック・パラリンピック

競技大会を契機に、国内外から観光客を誘致するため、平成 28 年 6 月に「神奈川県観光魅力創造協議会」を設置し、官民が連携して、県内の観光コンテンツの発掘・磨き上げや、周遊ツアーの企画・商品化に取り組んでいる。

#### イ 神奈川県観光客受入環境整備協議会における議論を踏まえた更なる受入環境整備事業の推進

平成 29 年 1 月に「神奈川県観光客受入環境整備協議会」を設置し、県内における観光客の受入環境を官民が連携して整備していくための事業内容や役割分担等について、全 6 回の議論を行った。

そこで、この協議会での議論を踏まえて、今後、官民が連携して受入環境整備事業を推進していく。

#### ウ 住宅宿泊事業法の成立などに伴う民泊の健全な推進や、「セレクト神奈川 100」によるホテルの誘致による、宿泊インフラの充実

平成 29 年 6 月に成立した住宅宿泊事業法などに基づくいわゆる民泊サービスの健全な推進や、「セレクト神奈川 100」によるホテルの誘致などにより、宿泊施設の充実・多様化を図る。

#### エ 宮ヶ瀬湖周辺地域の活性化

平成 28 年 12 月に認定された地域再生計画に基づき、首都圏最大の宮ヶ瀬ダムと豊かな自然に恵まれた周辺地域の魅力を最大限に活用していくため、遊覧船のリニューアルや、湖の特性を生かした「遊び・アクティビティ」の充実などを行い、地域全体の魅力向上と、観光を通じた地域活性化を推進する。

#### オ 超過課税を活用した、東京オリンピック・パラリンピックに向けた幹線道路の整備

東京 2020 オリンピック・パラリンピック競技大会開催の機会を捉え、超過課税を活用し、東京オリンピック・パラリンピックに向けた幹線道路の整備に取り組んでいく。

#### カ エグゼクティブツアーの企画・商品化の推進

海外の富裕層を県内に呼び込むため、ラグジュアリーな体験やヘルスケアなどを含む、富裕層の趣向に合致した旅行商品の企画・商品化を促進する。

#### キ 歴史をテーマとしたプロモーションの実施

鎌倉、大山、横須賀の「日本遺産」認定を契機に、日本遺産を核として県内全域の歴史をテーマとした観光プロモーションに取り組んでいく。